

第3回 三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会 会議録（概要）

件名	第3回 三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会		
日時	令和6年10月28日(月) 14:00～16:30	場所	三次市役所本館6階 605・606会議室他
出席者（策定委員）16名		出席者（事務局・基本方針策定支援業務受託者）	
・林会長 ・浦田委員 ・藤川委員 ・安田委員 ・次川委員 ・池上委員 ・高田委員 ・増田委員 ・水越委員 ・岡崎委員 ・今井委員 ・長尾委員 ・三上委員 ・森川委員 ・福田委員 ・佐々木委員		・迫田教育長 ・宮脇教育部長 ・豊田教育部次長 ・渡部課長 ・藤本課長 ・今井係長 ・新谷係長 ・曲田専門員 ・平主事 ・(株)エブリプラン3名（基本方針策定支援業務受託者）	
欠席者（策定委員）			
・小川副会長 ・田中委員 ・住岡田委員 ・岩崎委員			
項目	(1) 報告事項 第2回策定委員会の意見概要 (2) 協議事項 「望ましい学校の配置」について（グループワーク）		

1 開会

事務局 定刻となりましたので、ただ今から「第3回三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会」を開会させていただく。

傍聴の希望があるので、入室を許可する。

～傍聴者（3名）入室～

本日の第3回策定委員会への欠席委員を報告する。

～4名（小川副会長，田中委員，住岡田委員，岩崎委員）の報告～

2 報告事項

林会長 ～資料1に沿って第2回策定委員会の意見概要を報告～

3 協議事項

(1) 「望ましい学校の配置について」

ア 資料説明（事務局より説明）

- 学校区の状況，児童生徒数の推移（推計）について（資料２・資料３）
- アンケート調査について（資料４）

イ グループワーク

〈ポイント〉

- ① 本市のひとづくりに係って，現にある魅力・特色
- ② みよし結芽人を育成するための学校・地域の協働
- ③ 児童生徒の多様化への対応
- ④ 将来的な少子化の進行に対応するための学校規模・学級規模

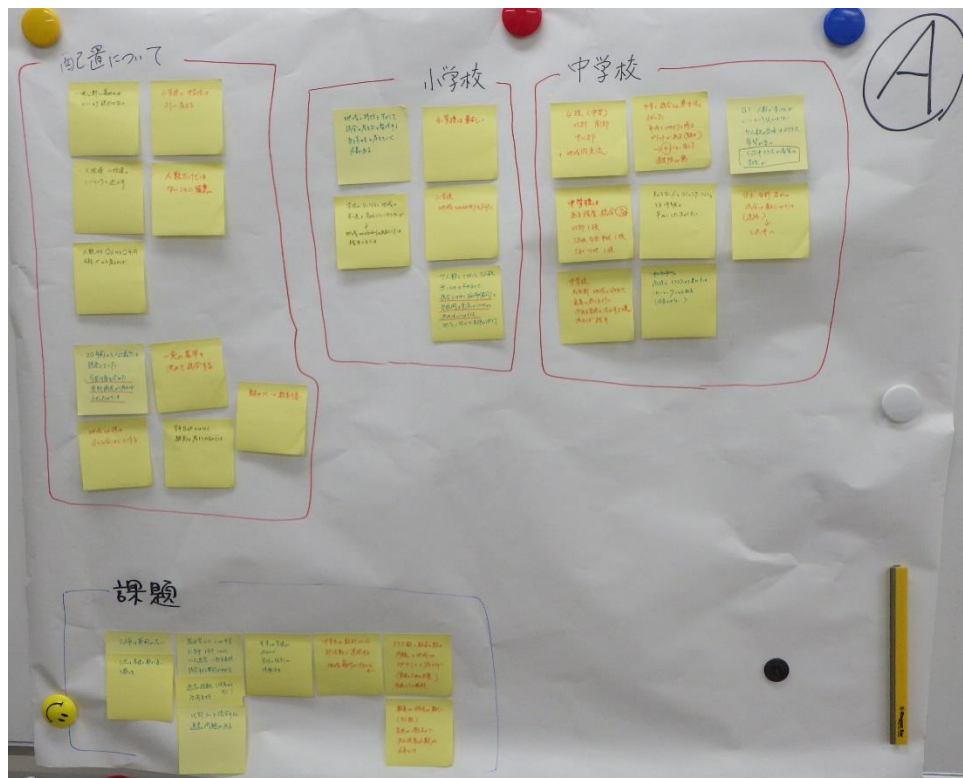
〈協議内容〉

- ① 小・中学校の位置図や現状を踏まえて
- ② 子どもにとって魅力ある学校規模や学級規模の基本となる人数
- ③ 学校の魅力化が実現する配置について（中学校）
- ④ 学校の魅力化が実現する配置について（小学校）

【グループ分け】

- Aグループ：林会長，佐々木委員，福田委員，高田委員，増田委員，水越委員
- Bグループ：浦田委員，藤川委員，岡崎委員，長尾委員，安田委員
- Cグループ：池上委員，次川委員，今井委員，三上委員，森川委員

ウ 発表（グループ毎）、まとめ
【Aグループ】



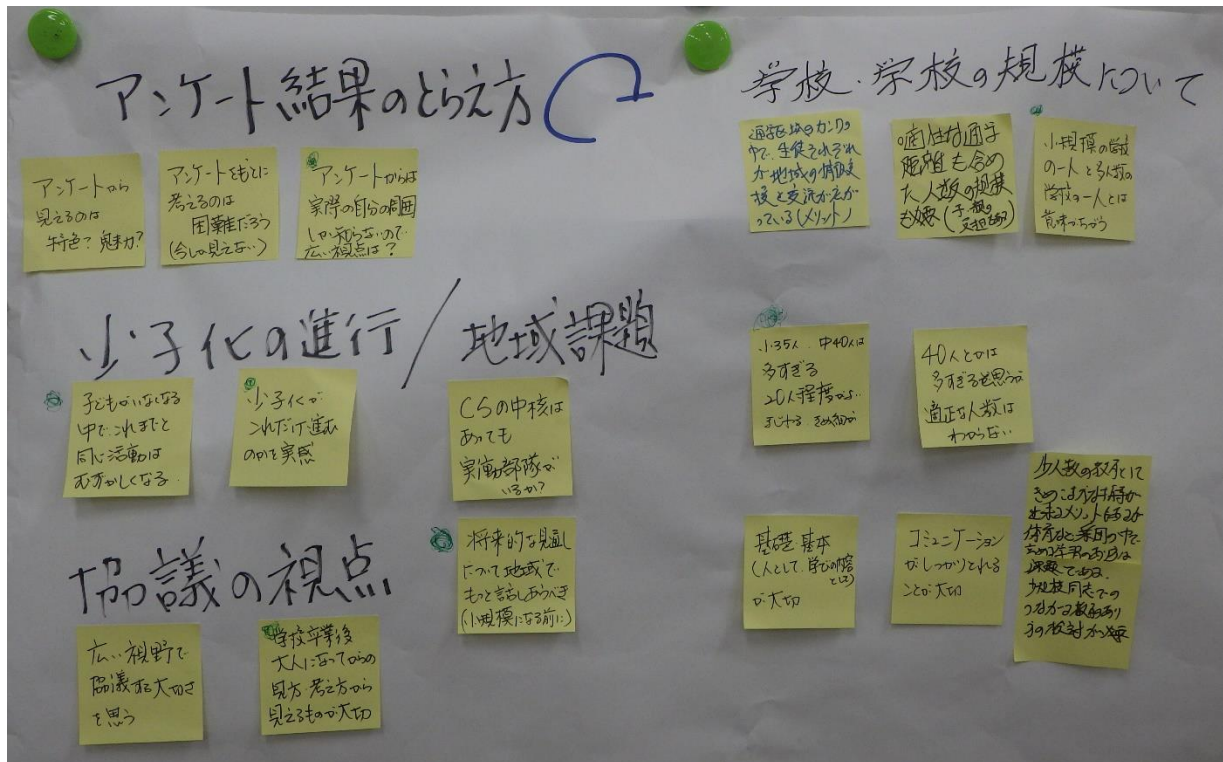
- ・小学校については、学校がなくなると、地域の過疎が進行するため、最低ラインはあるが現状のままでよいのではないかな。
- ・中学校については、東西南北で4校にすればよいという意見や、地域をみて7校程度にすればよいのではないかな。
- ・中学校を選ぶ際、部活動を基準にしている子どももいるため、ある程度の人数が必要になる。
- ・発達段階を考えると、早い段階で知らない人とコミュニケーションができる体験をした方がよい。
- ・少人数校を卒業し、人数が多い学校に進学すると怖いと感じることがある。
- ・三次市全体で育てていくということになれば、地域の人とのかかわりが必要である。
- ・地域とのかかわりが児童生徒に良い影響を与えているため、つながりや特性を生かしながら、統合のあり方や魅力づくりを考える必要がある。
- ・各地域に文化や取組があり、誇りを持っているため、中心部に集めるのはどうなのか。
- ・教職員定数には学級数による学校規模で決まるため、小規模校では教職員が少なく、中学校では科目ごとの配置を考えると教員の負担が大きく学校運営が難しくなる。
- ・三次市は範囲が広いので、統合の際は、通学予算も踏まえて考える必要がある。
- ・ICTが進む中、学校へ通って行う教育が必要なのか、未来に学校が必要となるのか。

【Bグループ】



- ・小学校は歩いて行ける距離に置いたほうがよい。
- ・地域の特色を子ども自身に伝え、選ぶ機会があればよい。
- ・小規模でも大規模でも、資源の豊かさを活かした教育が必要であり、地域と一緒に子どもを育てる必要がある。
- ・中学校はこのまま 12 中学校区でよいのではないか。
- ・自由で多様な選択肢の提供が必要で、家庭環境に左右されず、子どもの意思で選択し、移動できるようになるとよい。
- ・一方で、学校を自由に選択できるのはよいが、地域から子どもが流出してしまい、元気がなくなる心配がある。
- ・クラスは縦割りで、授業になったら横割りにすればよいのではないか。
- ・適正なクラス規模は 10 人程度ではないか。多すぎても難しいのではないか。
- ・20～30 人程度で 2 クラスが適正ではないか。
- ・極端に人数が少ないクラスだと人間関係が崩れたときに逃げ道がないため、ある程度の人数が必要である。
- ・合併や統廃合により今ある機能をどう補完し、誰が存続維持するのが課題となってくる。
- ・中学校区域をもとに自治連合会や支所があることを前提に子どもたちのことを考えるべきである。
- ・統合しても、それぞれの地域での活動の時間を残した上で 1 つにするとよい
- ・学区をまとめようと思うと自治連をまとめる必要があり、1 つにまとめるのは難しい。
- ・校区内で複数の学校区が分かれているところは、規模の大きな学校を分けることによって、適切な規模及び配置とすることができるのではないか。

【Cグループ】



- ・学校の規模が小さくても規模がもっと多ければよいとはならない。
- ・40～50人になると目届きにくい。
- ・もともとなかったもので、「ないものはない」という考え方をする。何が強みでそこに学校があるのかを考えると、残したい学校が出てくる。
- ・地域に学校があることも大切だが、子どもの学びを考えたときには、ある程度の人数が必要である。
- ・子どもが色々な人にかかわるためには、ある程度の人数が必要である。
- ・毎日地域が学校にかかわっているわけではない。子どもを地域にしがみつかせるのではなく、地域差・人数差がないような環境がよい。
- ・担任の先生にしか相談できないのでは困る。先生の人数を確保するには子どもの人数が必要である。
- ・1クラス40人程度より、30人程度のクラスの方がのびのびして見えた。
- ・20～25校程度が適切ではないか。
- ・まちづくりがストレートに教育活動に関わっているわけではない。
- ・交通状況や地理的な側面から配置を考える必要がある。
- ・中学校の方が地域からの距離があるように感じる。
- ・数字上は令和25年に中学校5校でよいが、単に数字で決めるのではなく、どこに学校が必要かで決めるべきである。
- ・小学生が遠くの学校に通うことは考えにくい。

【振り返り】

林会長

アンケートについては、自分の経験の中で回答している人が多いので、もう少し分析が必要である。

少子化が進行しているのは各グループ共通の観点であった。その中で予算はどのように考えているのか、現状の中で三次の教育をどのように考えていくのかを議論していかねばならないと感じた。

当事者としての子どもはどのように考えているのかが大切である。それぞれ、小学校、中学校で考えが異なるのではないかと考える。また、小規模校のあり方や大規模校のあり方といった視点もあるのではないかと考える。

地域との関係を大事に捉えてもらっている。地域に根っこを持っているかどうかは、地域とのかかわりの中で育っていくものである。中学校になると、地域の中でそれが実感できることが必要なのではないかと考える。府中明郷学園の話のなかで、地元で成長させるという話を出していただいたが、それを三次でどの程度取り組めるのかが重要である。

教職員の人数は学級編制で決まるため、小規模であれば学校運営は難しくなり、そのことを伝える必要がある。このような現実的な問題とそれをどう解決していくのかを踏まえて議論していく必要がある。

三次の魅力や特色をどれだけ学校教育に生かしていくかについて、地域に子どもたちの根っこを残しながら、三次全体の良さとその地域にある良さをミックスしながら教育していくことがよいと考えるなら、小学校は地域にある方がよいと感じた。一方で自治振興区に縛られたものであってはならないのではないかと感じた。それを統合していくような形で、地域が変わっていく必要があるのではないかと考える。新たに子どもが生まれてくるなかで、自分の地域として、三次という大きな地域と育った地域の両方を実感できることが大切である。

また、子どもの多様化についても考えていく必要がある。東広島市で小規模特認校として八本松中学校区の吉川小学校が指定されている。その学校評議員と協議会の委員をしているが、この小学校では、子どもたちが多方面からきて地域を育てている。そういった特認校制度を三次市で使えるかもしれない。そのようなことも考えながら多様化について考えていくとよい。

将来的な児童生徒の少子化の進行も、小学校、中学校それぞれで考えていく必要がある。今日は375号を北上し、三和、川西、田幸、塩町、美術館、尾関山といったルートを通ってきた。それぞれの中でいいものがある。交通手段も考えながら、子どもたちが無理のない範囲で考えていかねばならない。

今回の「望ましい学校の配置」という中で、様々な意見がでた。それらを精査し、集約していくことが大事だと思う。

以上で、本日予定していた議事はすべて終了した。委員のみなさまには円滑な進行にご協力いただき、感謝申し上げます。

それでは進行を事務局にお返しする。

5 その他

事務局

グループごとの意見は速やかにまとめてフィードバックする。短い時間だったので、伝えきれなかった意見や掘り下げたい観点があれば、事務局に連絡いただきたい。欠席された委員にも本日の協議内容を送り、意見を頂くよう依頼する。また、本日を締切として、保護者のアンケートを実施した。結果が集約でき次第、委員会の協議資料とともに送らせていただく。

次回の策定委員会は11月25日(月)14時から、三次市役所において開催する。本日の今回の振り返りを行い、基本方針素案のたたき台について協議にしていくことを予定している。

以上をもって、「第3回三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会」を終了する。